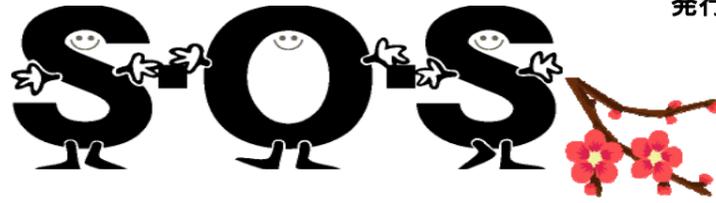


vol. 127通信 (平成23年3月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113
〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

毎日一緒にすごい！／ナイス・キッズ

1月、大阪から4歳の男の子がやってきた。(母親の出産の為里帰り中の期間限定♡) その子はバリバリの大阪弁!! 子ども達も大阪弁に興味津々。“それって、どういう意味?”と尋ねる。“それはさあ～、こういう意味だわさあ～”と答える私の言葉は尾張弁丸出し!! 1ヶ月程たったある日、子ども達の会話にふっと気がつく、あれっ、みんな大阪弁がうつってるっっっ…。あまりにおもしろくて笑っちゃいました♡ 子ども達の順応性ってやっぱリスゴイ!! ちなみに大阪の子もおもしろお～い程に尾張弁が板について大阪へ帰って行きました。家族も大笑いでしたとさ。(笑)<R・W>



『逃げろーっ!』／ナイス・デイ

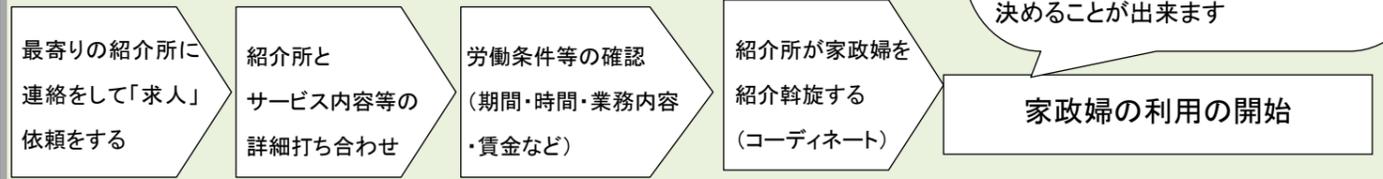
毎月20日は月に1度の避難訓練の日。利用者の皆さんは毎回とても協力的。その中の1人にSさんがいる。Sさんは重度のパーキンソンと認知証を患ってみえ、複数の施設を利用されている。その為、ナイス・デイは月3～5回の利用。今回はじめて避難訓練の日にデイの利用日となり、Sさんももちろん参加。ケアマネさんから聞くところによると、Sさんが主として通ってみえる大規模施設では、ほとんどSさんの意志や発語は聞かれないという情報。でも、何故か…? ナイス・デイの利用時はよくお話しされる。少人数ならではか…? この日も避難前にスタッフの説明をしっかりと聞かれていたとみえ、いざ車椅子で外に出ようとした時、突然「逃げろーっ!逃げろーっ!」と言われ、ビックリするやら笑えるやら…。飾らないSさんのおしゃべりには、いつも心ませられる。月に数回の利用の度に感じる心とむっ囲気にもいつも感謝。定員10名だからこそ何気ないひと時がとても大切です。<M・O>



職業紹介の利用／つしま紹介所

紹介所とは、職業安定法に基づき厚生労働大臣が有料で職業紹介をすることを認めている民間の職業紹介事業者です。紹介所は「有料の職業紹介事業」として事業の運営費用を求職者や求人者から法定手数料等としていただいています。求人者(お客様)は家政婦を個人的に直接雇用する関係です。雇用するにあたり、求人者は紹介所に対し労働条件(期間・時間・業務内容・賃金など)の明示をし、その内容の合意の上で、求人者と求職者の間で雇用契約が締結され、求人者は労働の対価として家政婦に賃金を直接支払っていただきます。<Y・I>

～家政婦の利用に至る過程～



家政婦の主なサービス内容
介護サービス

- ・食事介助・入浴介助・排泄介助
 - ・通院介助・外出時の付添い
 - ・その他身辺に係るお世話
- 家事サービス
- ・掃除・洗濯・調理と片付け
 - ・買物・話し相手・子守り
 - ・その他家事に係るお世話
- ※労使の話し合いで、サービス内容を決めることができます

復活!!／愛宕の家

昨年末の冷え込みが厳しくなった頃、Tさんは在宅酸素をレンタルするまでに体力が落ちた。食欲なし、固形物は食べられず、飲み物にもトロミをつけなければムせて咳が止まらない状態。少しでも…と部屋の前を通るたび、家族が持参したプリンや水分などを勧めた。自ら体を動かすことがままならず、いつもイライラし怒鳴り声となって吐き出されていた。その声も徐々に小さくなり“年を越せるだろうか…”と誰もが思っていた。年が明けた。無事(?)誕生日を迎えることができた。今では「弁当屋まだかあ～」と言うほど食欲が戻り、ベッドに腰掛けている時間も持つことが可能になった。在宅酸素も返却され、好きだった釣りの話をよくしてくれる。御年80歳。生命力の強さに脱帽する。そんなTさんに寄り添った関わりを持っていきたいと思う。<H・O>



ほう・れん・そう／ナイス・ホーム

その日、Kさんは『通い』と『訪問』の利用。夕方の訪問担当者が事務所に帰ってくるなり「今日、Kさんの腰に傷があった?」と通いのスタッフに確認あり。訪問時、排泄交換をして気付いたとの報告。処置をしながら関わったものの、その後アツという間に傷は悪化。介護職⇄看護職⇄ケアマネ⇄家族⇄関係機関へ次々と連絡をとり、すぐに福祉用具を見直し、医療機関と連携し処置法を統一。日々の関わりの中でちょっとした変化に気づき、どれだけ早く連携して体制を見直すか。これは、利用者さんやその家族にとって、自宅で介護を継続できるか否かの生活問題に直結する可能性もある。「通い」「訪問」「泊まり」「ケアマネ」がひとつの事業所で連携できる事で利用者さんを知る機会が増え、情報量も増えています。報告・連絡・相談の大切さを日々感じながら業務に就いています。<Y・O>



看護師コーナー／食べること(摂食)・飲み込むこと(嚥下)とその障害～摂食・嚥下とは?

もぐもぐと噛み、唾液と混ぜながら飲み込みやすいよう柔らかくまとめる(=食塊形成)準備期が終わると、次は③口腔期④咽頭期へと進む。

③口腔期(食塊を口腔から咽頭へ運ぶ)は、舌の運動が鍵となる。舌の動きにより舌の後ろの方へ食塊を送る。舌の後ろまで送られてきた食塊は、今度はのどへ送る通路を作るために舌の後ろが前にスライドするように動く。この動きでのどの奥が開かれる。次に舌がしっかりと上顎に押し付けられる。これは食塊をのどに押し込む力となるのだ。つまり、この口腔期が嚥下のスタートとなる。



次に④咽頭期(食塊を咽頭から食道へ送り込む時期)。のどの奥にまとめたものが到着すると一気に食道の方に送り込まれる、これが嚥下反射である。この嚥下反射は無意識で自然におこる運動。この反射が起こると同時に色んな仕組みが働く。まず、3つのドアを閉じる。3つとは口腔・鼻腔・気管だ。ここに食べ物が漏れないようにしっかりと閉じられるのだ。次に咽頭の蠕動運動がおこり、食道へスムーズかつ的確に送り込まれる。この蠕動運動が弱いと気管に食べ物が流れていく危険性がある。この2つの働きは舌やのどの筋肉が正確にスピーディに共同作業することが求められる。そして、この時期に重要な最後のポイントとして嚥下性無呼吸というものがある。飲み込んでいるとき、呼吸をしていないことが感じ取れるはず。ここで、嚥下と呼吸に重要な関係があることがわかる。呼吸状態が良くない時に食事がとれないのは、呼吸を止めないと飲み込めない=呼吸を止めても予備の換気量があることが前提となるのだ。



何気ない一瞬の出来事。意識しないでもできてしまうこと。だが、文章にするとすごい働きが行われていることが分かる。6ヶ月になった息子もこの難しい作業をいつの間にか覚え、しっかりと離乳食を頼る。本当にこんな難しい技をこんな小さな体で身に付けているのだろうか…と、思ってしまう。でも、まだお茶や牛乳をコップから飲むのは難しいみたい。空気まで飲んで、大きなげっぷが出たり、嘔き出したり、むせたりしている。がんばれ、がんばれ。息子の嚥下訓練は続く。<M・T>

社外研修を生かす／ナイス・ケア

しっかりとオムツを当てたはずなのに、次に入ったスタッフから「尿漏れがありました」と報告を受けることがある。「皆どうやっているの?」「どうすれば良いの?」そこで、オムツのあて方について、社外研修を受講したスタッフが先生となり、社内研修会が開かれた。体形や排泄物の量・状態によって、パットを使い分けたり、“山型あて”や“谷型あて”にして工夫したり、とまずは理論的な説明からスタート。オムツやパットもどんどん進化している。私達もそれに付いていかなきゃ。その後はスタッフ同士で実践。実際にオムツを当てると、ブカブカになる場所、動くときにつくって突っ張ってしまう場所がよく分かる。「パット1枚が厚くて、違和感がある」「腰はきついのに、股はスカスカで尿漏れしそう」最後に体にオムツがフィットするように手を添わせてくれたら、ピタッと体に馴染んだ気がした。全ての意見は利用者さんが感じている言葉だと気付いた。社外研修の内容を発表することは受講したスタッフの復習になり、他のスタッフの技術や意識の向上に繋がっている。「今度は、〇〇さんが教えてね」(A・M)



3月の利用状況

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
6	7	6	8	8	8	6

(数字は定期のご利用者数)

☆ナイス・ホーム(定員17名)
登録者13名

☆ナイス・ケア(定員なし)
新規サービス大歓迎

☆愛宕の家(定員10名)
入居者9名

☆…募集中 / ★…満員
お気軽にお問い合わせ下さい